

# えいらい

No.50



撮影：総務課／松長聰美（松山城と梅）

令和4年1月発行  
発行元／一般財団法人永頼会 松山市民病院



〒790-0067  
愛媛県松山市大手町2丁目6-5  
TEL / 089-943-1151  
FAX / 089-947-0026

発行責任者／理事長 山本祐司  
編集／松山市民病院広報委員会

## 今号のトピックス

- ◊ 年頭挨拶
- ◊ 臨床の現場から：整形外科
- ◊ 広報誌「えいらい」50号記念
  - 年頭挨拶で振り返る50号
  - 座談会
- ◊ The Specialist : 薬剤部
- ◊ リハビリ Step by Step
- ◊ 連携医療機関の紹介
- ◊ お知らせ

## 年頭挨拶

—地域住民のために急性期医療と各科の専門性を活かした高度医療を目指す—

院長 柚木 茂



2022年（令和4年）謹んで新年のお慶びを申し上げます。

松山市民病院と連携、交流をいただいている医療機関・施設並びに、地域住民の皆様には日頃よりご支援とご指導をいただき心より感謝いたします。

昨年は新型コロナウイルス感染症が蔓延する中、東京オリンピック・パラリンピックが開催されました。その様子はテレビやその他のメディアで放送され、選手の活躍に感動と勇気をもらいました。その後ワクチン接種が進み、少しづつ状況が改善しています。しかし新型コロナウイルスも変異を続け、完全に克服するまでにはいたっていません。治療薬の効果も報告されていますが、今年も新型コロナ感染症と共に存する制約された生活が続きそうです。

当院は昨年「地域に根ざした医療－新しい時代の病院へ－」をスローガンに掲げ、様々な事に取り組んでまいりました。病棟再編を行

い、感染対策を徹底し、院内感染症を起こすことなく、救急輪番病院の責務を果たすことができました。新型コロナワクチン接種では市民病院での個別接種と、各地で実施された集団接種に積極的に協力し、新型コロナ感染症の減少に貢献できたと考えています。

また、この新年号にて、広報誌「えいらい」が記念すべき50号を迎えることができました。これもひとえに、皆様のお力添えのおかげと、深く感謝しております。

今年は病院設立から66年目になります。66年目の病院運営として、これから3年間が大事な時期と考え、中期目標を「地域住民のために急性期医療と各科の専門性を活かした高度医療を目指す」と定めました。この中期目標は市民病院が地域住民の皆様一人一人に寄り添い、患者さんを支えつつ、診療科ごとの特性を活かし、医療の変化に対応し、高度な医療を地域の皆様に提供す

ることを目指していくという意味です。

2022年の干支は壬寅（みづのえとら）です。逆境にもめげず、力強さと成長がダイナミズムと熱意で引き出される時期といわれています。また過去にとらわれず、社会に対して必要とされる人物が伸びていく年になるとも言われています。

デジタル化が発足し、マイナンバーカードと健康保険証の統合が進んでいます。デジタル革命が進み、脱炭素を目指す新しい時代の息吹を感じられる新年となりました。

松山市民病院は地域住民の皆様に支持されながら、新しい治療法、技術、医療機器を導入し、地域の安全・安心のために、これからも努力していきたいと考えています。

新年が皆様にとって、躍進の年となることを祈念しまして、年頭の挨拶とさせていただきます。今後とも皆様のご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。